

中山間地域総合整備事業の効果について

Study on integrated improvement project in less favoured area

加藤 敬

Takashi KATO

1. はじめに

中山間地域の農地は狭小で作業効率が低いものの、畑、樹園地、施設農業を複合的に活用し、また社会変化に合わせ作目変更や長期安定出荷・販売方法の工夫など不利な条件を克服した農地の活用が行なわれてきた。農業基幹施設の整備として、農地の緩傾斜化等の圃場整備、用排水の整備、及び道路や集荷・選果施設整備等が挙げられる。その結果、これまで以上の経営が展開されている地域も散見される。中山間地域において、今後、農地利活用の促進を支援するうえで効果の高い整備、必須的に求められる整備を明らかにする。

2. 方法

市町村単位の農業生産額の統計データと中山間地域総合整備事業の有無の関係を比較する。また、完了地区の記述式の事業効果調書の中で事業種類に関する語句がある内容は効果のあるものとして件数と効果内容を文字検索で抽出した。

3. 結果の概要

(1) 事業実施の約 1,100 地区での生産基盤関係の整備は農道が 80%の地区で、用排水施設が 78%、圃場整備が 60%の地区で実施されている。生活環境関係では集落道が 61%の地区で実施されている。市町村単位での農地面積と受益面積の割合が 20%以下の地区が 55%以上である。

(2) 農業生産状況が相対的に良好な市町村の中山間地域総合整備事業地区で行われた整備内容を求めようとしたが、市町村単位の農業粗生産額データでは事業の実施による影響は明らかにならなかった。市町村の農地面積に対する受益面積の割合が小さいためと考えられる。平成 2 年以降は全国での生産農業所得が低下している。平成 1 2 年でのデータでは、ごく一部の市町村が畜産、花卉関係の産出額を伸ばし、平成 2 年に比べ農業生産額を増加させているに過ぎない。

事業実施地区を含む市町村農業粗生産額のデータ（約 3,000 件）をもとに、表 1 の農業粗生産額の 2000 年 / 1995 年の比を求めた。10 % 以上の市町村で回復傾向 (1.0 以上) となっている

表 1 市町村の農業粗生産額2000年/1995年比

	農業類型区分			
	I 都市的地域	II 平地農業地域	III 中間農業地域	IV 山間農業地域
平均	0.85	0.88	0.86	0.86
事業有り平均値	0.827	0.881	0.866	0.854
事業有り件数	55	97	525	429
事業なし平均値	0.852	0.871	0.852	0.861
事業なし件数	680	591	486	276

比の値が 1.5 を越えるものは平均値の計算から除外した。

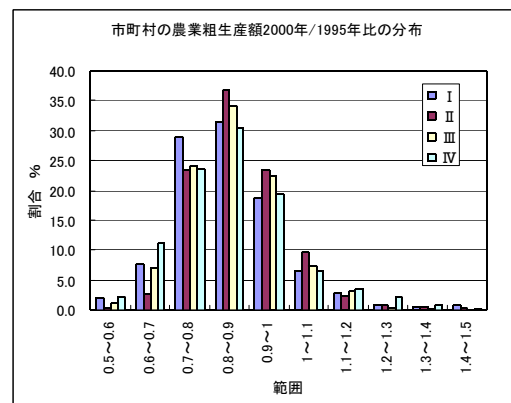


図 1 市町村の農業粗生産額

2000 年/1995 年比の分布 (農林統計資料等から)

る。平均値は事業の有無での差は小さく、度数分布（%割合に変換）を農業地域類型で比較しても違いは小さい（図－1）。

（3）事業効果調書中にある事業の種類、件数と関連単語の検索で挙げられた地区数を表－2に示す。最も多く挙げられた単語は「道」または「農道」である。ただし、集落道、圃場整備を含めて効果が記述されているものが多く、効果の内容については明確な分離はできない。農道の他、調書の中で挙げられた件数が多かった事業は、活性化施設、農村公園、用排水路である。また、活性化施設の効果では女性が気兼ねなく社会参画できる支援になっている記述も見られた。

（4）農道整備の効用

- ・農道に関する評価内容の一部を表－3に示す。道路整備の具体的改善内容は道幅の拡幅と砂利道の舗装が大きく占め、出役がなくなることも記述された。
- ・生産面に関しては、大型機械の導入による軽労化と農作業効率の向上であり、余暇時間の発生が挙げられた。この時間は新しい作物への転換のため、あるいは地域活動のに使われる。作業の受委託が進む、トラックを圃場に横付けできる、出荷の荷傷がない、圃場の見回りが容易になった（例：兼業農家が勤めの行き帰りに圃場が見られる、高齢者がバイクで見回りに行ける）等がある。
- ・生活改善面では、通学路、生活道、車両のすれ違いが可能、緊急自動車の通行（安心、安全）、除雪が可能による冬期の通行確保、利便性が高まる、といった内容となった。生活改善、安心安全に関する内容が目立った。

表－2 調書に挙げられた事業種類

事業種類の地区数	事業種類	検索に用いた単語と一致の件数
76	農道	道
46	集落道	
34	ほ場整備	ほ場整備
12	区画整理	区画
56	用排水施設	
16	集落排水	水路
12	農地防災	防災
3	農地開発	農地開発
4	高付加価値農業基盤整備	高付加
8	暗渠排水	暗渠
3	客土	客土
44	活性化施設	活性化施設
	飲雑用水	飲雑
42	農村公園	農村公園
15	用地整備	用地整備
7	防災安全	防災安全
4	交流施設基盤	交流施設
4	情報基盤施設	情報
2	地域資源利活用	地域資源
16	多目的広場	多目的広場
2	遊水池整備	池
4	準備休憩施設	準備休憩施設
2	鳥獣害防止柵	柵
5	体験農園	農園
2	特認事業	特認

表－3 農道に関する評価内容

農道によって改善された点、あるいは評価内容
作業機械の搬入が容易になり生産性が向上。集落間を結ぶ地域に密着した道路
大型機械による耕作地への出入りも短時間で安全
春季の耕起、田植え作業時・秋季の刈り取り時には隣地との調整が必要であった。
農業機械の運行が容易になったことから、高齢者までもがほ場に入出りできる
米麦作付け体制を推進し、農地の高度利用が図れ、生産性の高い農業が可能と
出役による補修はなし(農道・用水整備)
労働力が投入が軽減。その余暇を利用し、地域活動への参加が積極的になってき
緊急車両の通行
良品質の農産物が収穫できると共に、農作業、労力の節減と快適農業ができる。
集落活動が円滑化し、農村環境が美しく整備された。
営農作業が軽減されるとともに、通学路として利用
余剰労力と地域の盛り上がりで集落営農の動き
労力が節減されるとともに荷痛み防止、通行の利便性が向上し、付加価値の高い
スイカ栽培を始め営農規模が増大した。
団地の維持管理に支障をきたしている。→農道舗装を行なうことにより、圃団地の
維持管理や生産物の出荷が省力化できるため、団地の拡大を行い生産
中型機械の搬入が可能になり、農地の集団化と流動化が可能
徒歩耕運機。 → 乗用トラクター使用。
道路が狭く離合できなく、薬剤散布などの作業する場合、作業中断して移動したり、
迂回しなければならなかった。道路の拡張改良により農耕車両の障害が解決され
農道の整備により観光ぶどう園などが導入された。
農地の貸借及び農作業の受委託が進み

（データは北海道を除く131地区）

4. おわりに

事業の中で道路の整備は労働軽減、生産活動のみでなく生活全般において影響が広く重要な要素であることが分かる。具体的にはできなかったが、中山間地域での最も効果ある整備内容は道路を中心とした生活改善につながり、生産にも寄与するものと考えられる。